

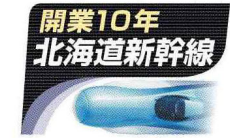


年 組 名前

道新ワークシート

開業10周年を迎えた北海道新幹線を私たちは今後、どのように活用していけばいいのか。交通政策に詳しい青森大の櫛引素夫教授に聞いた。

新幹線の最大の価値は、単なる移動スピードの向上ではなく、線路を通して全国ネットワークに組み込まれているという「安心感」と、それに基づいて生活のあり方が変わることにあります。乗車人数や観光客数といった数値だけで「新幹線効果」を測ることはできません。本当の効果は地元住民の行動の変化や新幹線を「手段」として活用した地域課題の解決の中にあります。



行動のベースが変化

地域再生手段として活用を



青森大櫛引教授に聞く

くしびぎ・もとお 1962年、青森市生まれ。東北大大学院理学研究科修士後、東奥日報記者になった。2013年に退社し、青森大准教授を経て16年から現職。専門は地理学。

だったことが半日で済むようになり行動のベースが変わります。新幹線です。つながること、未来について考える時の「出発点の風景」が劇的に変化するのは、鉄道愛好家を除き、新幹線に乗ること自体が目的になることは少ないでしょう。新幹線の真価は「新幹線×教育」「新幹線×医療」といった人々の生活との掛け合わせにあります。

ある」という受け身での期待は、地域の思考停止を招きます。行政や議会、経済界には「新幹線を使って地域がどう幸せになるか」を懸命に考えてほしいと願います。

が地域に与える影響を検証・言語化し、関係者が意見交換できるネットワークをつくりたいと考えています。メディアも「祝賀」報道や単発の批判で終わるのではなく、長期的な視点で地域の変容を追い、議論のための素材を提供し続ける覚悟が必要で。

札幌延伸までは最低でも13年間の時間ができました。この時間を使って、いかに持続可能な仕組みへの「人口減少社会の再デザイン」を進めるか。地域で徹底的に考え、議論する本気度が問われています。

私はこうした、新幹線 (聞き手・鹿内明代)



年 組 名前

道新のワークシート

(1) 新幹線の最大の価値はどのようなことにあるか、記事の中から読み取って書きましょう。

(2) 記事中にある、「新幹線を使って地域がどう幸せになるか」、「人口減少社会の再デザイン」について、あなたが考えることができる具体策にはどのようなものがあるか、書きましょう。

(3) 「新幹線が来れば地域は発展する」と言えるか、自分の考えを書きましょう。